

緑の相談所だより

- 62号 -

2000. 2. 1発行 編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

<p>洋らん春・夏の管理</p>		<p>果樹・庭木の剪定、防除</p>
<p>平成12年2月13日(日) 午後1時30分～3時30分</p>	<p>日時</p>	<p>平成12年2月27日(日) 午後1時30分～3時30分</p>
<p>旭川らん友会 会長 笠原幸三さん</p>	<p>講師</p>	<p>旭川市緑の相談所 相談員 佐野元雄</p>
<p>50名</p>	<p>定員</p>	<p>50名 <u>※定員になりました</u></p>
<p>花壇のデザインと花づくり</p>		<p>家庭菜園の準備</p>
<p>平成12年3月12日(日) 午後1時30分～3時30分</p>	<p>日時</p>	<p>平成12年3月26日(日) 午後1時30分～3時30分</p>
<p>旭川市緑の相談所 相談員 佐藤文男</p>	<p>講師</p>	<p>旭川市緑の相談所 相談員 佐野元雄</p>
<p>50名</p>	<p>定員</p>	<p>50名</p>

パフィオペディルム



別名 レディ・スリッパ
 花ことば…変わりやすい愛情
 原産地 熱帯アジア、インド
 から中国、フィリピン
 からニューギニア

お申し込み・お問い合わせ
 旭川市緑の相談所

865-5553



花卉が袋状で花色も派手さがないのですが、花もちがよく1～1.5カ月もの間花を楽しめます。
 室内の直射日光をさけた明るい場所に置きます。
 最低気温が7℃以上あれば大丈夫です。
 日中は20℃以上にしない方が花もちがよいでしょう。

置き場所

花を長く楽しむには、4～10℃くらいのところがよく、あまり暖かいと観賞期間が短くなります。

室内の日当たりのよい窓辺などで育てます。

水やり

蕾の時期以外はたっぷり与えます。特に開花中は水を多量に必要とするので、鉢土が乾ききらないうちに与えます。

花がぬれないように。



肥料

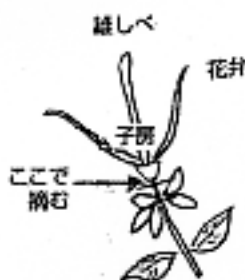
開花中は必要ありません。すべての花が咲きおわたら5～7月、9～10月に、油粕主体の固形肥料を月に1回と、薄めの液肥を週1～2回与えます。8月は中止します。

花後管理

盛りを過ぎた花は、種子に養分をとられると弱るので、子房を残さずにこまめに摘み取ります。(左図参照)

霜が降りなくなったら、鉢を室外へ移し夏場は直射日光を避け、秋まで管理します。過湿にならないように気をつけて水やりをし、軽い霜の降りるころ暖房のない室内に移します。

花がら摘み



植え替え

2年に1回、4月中旬～5月上旬にひとまわり大きめの鉢に植え替えます。

竹べらなどで根をほぐし土を落したら、根の先を2～3cmくらい切ります。伸びすぎた根や鉢に入りきらない根は切ります。

用土は赤玉土、腐葉土、鹿沼土の等量混合か、鹿沼土7にピートモス3くらいの混合土を用います。

竹箒などで根と根の間に用土をすきまなく詰め、株元があまり埋まらない程度に浅植えすることが大切です。

剪定整枝

植え替えと同時に、伸びすぎた枝は切り詰め、混んだ枝は間引き、株全体を半円形に刈り込んでおくと新芽が伸びたあとも美しい半球状になります。

花芽の形成に影響がないよう遅くとも5月上旬ころまでに行います。



枝のすくみを切り、傘状になるように姿を整える。徒長枝は深く切る

雪は深く気温も厳しい寒さが続いておりますが、日は少しずつ長くなり、日差しも日増しに強くなってきます。弱い光線でご慢していた植物も元気を回復し、また冬眠中の植物も目を覚ます時期になってきます。春はすぐ来ます、雪解けを待ちながら春作業の準備をしましょう。

雪が解けるまでの間に庭の花壇の設計、野菜の作付け計画等準備をすすめておきましょう。

鉢花等の管理

- ・ この季節になると晴天日の窓際には注意が必要です。温度が急上昇し、萎れ、葉焼け、蕾を落とす等の原因になります。またその夜は極端に温度が下がる場合が多く、昼夜の温度差が大きすぎると植物を弱らせます。遮光、換気、保温の操作で適温を保つよう心がけます。
- ・ ゼラニウム等の草花類、ハイビスカス等の花木類は切り返し、新芽を発生させ再生します。観賞期間の済んだポインセチアも同様切り戻しておきます。
- ・ シクラメンは高温に注意し、咲がらを手まめに取り、肥料も時々与えますとまだまだ長持ちします。
- ・ 休眠中のクンシラン、鉢植えアマリリス等、徐々に暖かく明るい場所に移し活動開始です。
- ・ 観葉植物は低温乾燥気味で管理しながら4月まで生育を抑える方が無難ですが、新芽が伸び始めるようでしたら光線がよくあたる場所へ移動し水と肥料を与えます。ベンジャミン、カボック、ポトス等この時刈り込み、剪定などで形を整えます。カイガラムシにも注意しましょう、葉がべとべとしてきたら葉裏、若い幹についているカイガラムシを歯ブラシ、綿棒などで丹念に取ります（室内の葉散は危険）

種まきと苗作り

- ・ 花壇用草花、野菜等の苗作りを試みてはいかががでしょう、育てる楽しみが一層深くなります。サルビア、ペチュニア、マリーゴールド等花壇用草花、トマト、ナス、ピーマン等ナス科の野菜は3月下旬から種まき開始です。苗を育てる期間は概ね定植まで50～60日です。市販のビートパン等利用し種をまき、育ち方に応じ1～2回大きさに合ったポットに移植、一番日当たりの良い場所で管理します。
- ・ ベゴニア（センパ）、インパチェンス等は室内に取り込んで越冬させた株から挿し木で苗を作ります。比較的簡単に増やせます。

果樹、庭木の剪定

- ・ 厳冬の季節が過ぎ、3月に入ると凍害の心配も少なくなり、樹形もよく観察できますので多くの樹木の剪定適期となります。但しカエデ類、ブドウ等は根の動きが早く樹液が溢れて止まらずそのまま枝枯れする危険が大きいのでこの時期を避け、秋の落葉直後に済ましておきます。
- ・ 庭木類は不要な枝を除き形を整え、また新梢の生長を促すことが目的です。
- ・ 果樹類は日陰のつくる枝を間引きし、枝葉全体に光線がよく当たるようにし、来年の良い花芽を育てることが目的です。

♣花づくりは基礎基本を知ることから♣

一年間の園芸プランもしっかりと立てられた事と思います。計画に従って春、夏花壇用の種子まきが始まります。草花の種類によっては発芽があまり良くないと聞くことがあります。その原因を探ってみましょう。

【種子の性質を知ろう】

I. 種子の形態

◎種子の大きさ＝（たねまき後の覆土に直接関係します）

(1)細粒種子（細かい種子より順に） ベゴニア、ロベリア、グロキシニア、ペチュニア、プリムラ・マラコイデス、キンギョソウ、ヒナギク、ケイトウなど

(2)大粒種子（大きな種子より順に）品種により異なる。

ヒマワリ、スイートピー、アサガオ、キンセンカ、ヒャクニチソウなど

◎種子の形 種類によって異なり、また種子の表面にはそれぞれ独特の模様が見られる（下図）。

センニチコウ、ローダンセのように種子が毛でおおわれているものもあり、それらはたねまき前に砂でこすって、毛を取り除いておくとよく発芽する。



①だ円形 オシロイバナ

②球形 フウセンカズラ

③細長形 コスモス

④かぎ形 キンセンカ（左 腹、右 背）

II. 発芽の条件

(1)水………種子は水を十分に吸収して発芽を始める。スイートピー、ルピナスなどマメ科の種子をはじめ、アサガオ、タチアオイ、アスパラガス（たねなしスイカ）などの種子は、種皮が硬くて水を通しづらい硬実種子、このような種子は種皮に平ヤスリなどで傷をつけて吸水を助けると発芽がよくなる。

(2)空気………種子の発芽するときさかな呼吸作用を行い、酸素を多く吸収するので、覆土が深すぎたり、水が多すぎたりすると酸素欠乏になって発芽が悪くなる。

(3)温度………種子の発芽に最適な温度は草花の種類によって異なるので注意する。

※発芽温度を変えることによって、発芽を良くする草花もある。

サルビア、ペチュニア、マツバボタン、西洋オダマキなど。

（昼間8時間30℃、夜間16時間20℃に変温するとよい。）

アスパラガス （昼間30℃、夜間15℃の変温するとよい。）

(4)光………多くの種子は水、空気、温度の発芽条件がそろえば、光に関係なく発芽するがなかには発芽に光が必要な明発芽種子（好光性種子）と、暗くないと発芽しにくい暗発芽種子（嫌光性種子）とがある。

◇明発芽種子（たねまき後覆土しないか、ごくうすくすると発芽がよい）

ベゴニア、ペチュニア、コリウス、ロベリア、キンギョソウ、インパチェンス、アゲラタム、ダリア、デージー、グロキシニア、カルセオラリア、シネラリアなど

◇暗発芽種子（たねまき後覆土をするか、暗いところに置くと発芽がよい）

ハゲイトウ、ヒャクニチソウ、キンレンカ、ルピナス、クロタネソウ、ホビー、ガザニア、デルフィニューム、シクラメンなど